

ロンドン旅行記(その3)

ロンドンの主要博物館・美術館は見学済みだが、Victoria & Albert Museum はまだだった。美術となると絵画中心となってしまう。V&A は工芸品・家具・調度品中心のため後回しになっていたのだろう。ここを訪れるのも今回の旅行目的のひとつ。結論から言うと実に興味深かった。3時間かけたが、本当はここだけで3日は必要。もっと早く見学しておくべきだった。自分の興味を引いたものをカメラに収めた。館内 Map に「20 Highlights」という、多分「お急ぎの方は、すくなくともこれだけは」の List が書いてあるのに、帰るときになって気付いた。自分の Highlights と一致するものはたった1点だった。それは 20 Highlights の中の唯一の絵画。ラファエル前派ロセッティの“The Day Dream”である。ターナー、ゲインズバラ、コンスタブルもあったがいずれも小品。同じ部屋にやはりラファエル前派のバン=ジョウンズのピアノ(1883-1885 制作)があったのでこれも撮った。工芸品ですね。ピアノついでに 1594 年ヴェネチア製のハーブシコード。フィレンツェのストロツィ家のためのもの。音楽ついでに 1738 年フランス人 Roubiliac の手になるヘンデル像。ロンドン南のヴォグゾールの Spring Garden に置く予定だったもの。手にしえいるのはオルフェウスの豎琴。神話ついでに Apollo の胸像。1730 年フランス製。





Jaggerによる浮き彫り”Scandal”。1930年製アール・デコ調だが、何か19世紀末を連想させる。アール・デコついでにアール・ヌーヴォーの Mucha。サラ・ベルナールによる椿姫（オペラの *La Traviata* でなくてフランス語の劇の方）のポスター。プラハのミュシャ美術館でも同じものを観たことがあるけれど、あそこは当然ミュシャだらけ。ここ V&A で一点だけあると目立つ。

まだまだあるけど切りがない。V&A 中庭の写真と度肝を抜かれるほどいくつも
ある大きな陶器の部屋の中からの一枚（マイセンかドレスデンか？）で打ち切りとします。



(その3 終わり)